

5. Choledocal cyst の胆道スキャンとその特徴

○伊藤 和夫 篠原 正裕
古舘 正従
(北大・放)

先天性総胆管のう腫と拡張症の10症例について、DIC, ERCP, Ultrasound ならびに CT 所見と比較し、胆道スキャンの有する特徴に関して報告した。

胆管のう腫の形態診断の重要な所見は、のう腫の存在と、のう腫内への胆汁流入を確認することである。CT 超音波画像は、のう腫存在の描出にはすぐれていた。しかし、のう腫内容物に関しては情報に乏しく、この点、DIC, ERCP, 胆道スキャンの方が確定的な診断情報を提供した。ERCP は、解剖学的把握がより容易であるが、年齢とのう腫の大きさに規制される傾向があった。その点、胆道スキャンは、年齢の規制はなく、特にのう腫サイズが大きければ大きいほど、診断的な価値を有していた。拡張症に関しては、DIC や ERCP の方が胆道スキャンよりは、より診断的価値を有していた。胆道スキャンは、胆汁通過を知ることのできる唯一の検査法として、のう腫内胆汁うっ滞の状態を把握するのにすぐれていた。

6. 肝転移部に ^{67}Ga 摂取を認めなかった悪性腫瘍の2症例

高橋貞一郎 久保田昌宏
大久保 整
(札医大・放)
佐藤 卓広 足立 謙蔵
(同・婦)

著者らは $^{99\text{m}}\text{Tc-Sn-colloid}$ hepatoscintigraphy にて欠損が認められた悪性腫瘍肝転移 19 cases につき、肝欠損部に ^{67}Ga citrate の陽性像が得られるかいなかに検討を行なった。

対照とした症例は、primary sites Lung 2, Breast 3, Gastrointestinal 7, Prostate 1, Ovary 1, Uterus 1, Other sites 4 の 19 cases で、このうち婦人科

悪性腫瘍 Ovary 1, Uterus 1 の 2 cases 以外は全症例肝欠損部に ^{67}Ga citrate の陽性像を認めた。

また肝転移部位の ^{67}Ga citrate 摂取は一般に primary site および他転移部位に比較して高いことも認められた。

今回著者らは、scintigraph 上 ^{67}Ga citrate の集積を認めなかった婦人科悪性腫瘍 choriocarcinoma of l. ovary, Endolymphatic stromal myosia of utereess の 2 症例に注目し、両症例につき臨床的考察も加えて検討したので報告する。

7. 耳下腺疾患のガリウムスキャンの検討

小川 敏英 高橋 睦正
玉川 芳春 西口 弘恭
有井 穂積 新藤 雅章
黒川 博之 高橋 栄治
宮内 孝治 斎藤 裕
(秋田大・放)

われわれは、耳下腺腫瘍、腫脹の臨床診断のもとにガリウムスキャンを施行し、その後手術などにて組織診断を確認し得た27症例に関して、ガリウムスキャンと組織診断との相関について検討した。また、同時に施行した $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ による唾液腺シンチ、さらには CT スキャンに関しても若干の考察を加えた。

組織診断の内訳は、耳下腺腫瘍が19例で、そのうち良性腫瘍が13例、悪性腫瘍は6例であった。なお炎症は3例、正常耳下腺組織が1例、そのほか耳下腺以外のものは4例であった。

耳下腺へのガリウムの集積の評価は、正常でも集積を認める鼻粘膜と比較して、相対的に、(-), (+1), (+2), (+3) の4段階の grading を行なった。27症例の結果は、良性腫瘍の13例のうちガリウムの集積を示さなかったのは4例で、残りの9例は集積を示し、うち2例は(+3)の高度集積を示した。また、悪性腫瘍の6例のうち、集積を示したのは3例であった。以上のごとく、腫瘍の悪性、良性とガリウムの集積には相関をみとめなかった。